

## 28年度広島・福山インターハイを終えて

2016h28. 8. 22

今年の水泳インターハイは3競技別々で飛び込み競技は福山市で開催された。開閉会式はプールの水深が上下動するのを利用して室内プールの50Mプールの半分を上げて選手をいすに座らせて行った。3競技別々で実行委員会の経費の問題であるとか、表彰の時間設定等をするときには余裕を持って考えることができるので、私個人の判断では3競技個々に開催するほうがいいと思う。また、今年から地域得点の低いものからの飛び順なので大会に見栄えがするし非常に盛り上がった。そして、バック音楽も鳴らしたがやはり、見ている観客の反応も集中しているところ、そうでない所がわかりやすいので良かったといえる。

競技のほうを見てみると、やはり若い力が台頭してきたなと思う。シンクロダイブ以外の正式種目の1位から3位を見ると女子高1年2名、男子板2名、女子板2名、男子高3名というように1年生の実力は非常に高いものがある。この若い力が2020年東京五輪を引っ張ってくれるものと信じている。そして板橋美波選手（甲子園学院）は、リオ五輪に出場しており、8位入賞という報を受けた。

男子総合優勝 東京都 帝京高等学校

女子総合優勝 兵庫県 甲子園学院高等学校

特に帝京は初優勝となった。

シンクロダイブ成績は男子3mシンクロ決勝1位 関東① 太田瑠輝、伊藤洸輝 215.76  
2位 北信越 浅田 光、中川虎太郎 195.48  
3位 関東② 金子舜汰、金戸 快 185.52  
女子3mシンクロ決勝1位 北信越 長沢明生、中 しず玖 190.17  
2位 中国 森淵茉莉愛、宮上 幸 184.56  
3位 近畿① 藤原ゆりの、美濃部沙羅 176.61

したがって、来年度の2チーム出場地域は男子は関東ブロック、北信越ブロックとなり、女子は、北信越ブロック、中国ブロック、近畿ブロックとなる。シンクロのエントリーチーム数は男女とも7チームとなっている。出場数も男女合わせて65名となって、昨年より上回った。来年は標準点数が女子は15点、男子18点あがる。

307C高のタイミングでスイングの前方向45～50度あたりで飛び出す脚（ひざ）の効きが宙返りに（スピード）あったものであれば成功する。我々の注意事項として「手を早く振りぬけ」というのは回ることは回るが、少しもちすぎになる傾向がある。したがって、いつものところで放してもややオーバーになる傾向がある。ということも選手を見ていて感じたところであった。

大会期間中、3日目のとき前日から調子の悪かった選手がいて休んでいたが我慢できなくなり救護室に来た。熱中症の疑いもあり救急車で搬送された。

今大会を成功に導いた実行委員会の栗田直哉先生をはじめ、熱いまなざしで演技をご覧になっておられた日本水泳連盟理事の藤本尚章先生、広島県水泳連盟副会長の井上勝司先

生、また、高体連からは全国の専務理事の奈良 隆先生、広島県からは小林泰崇先生をはじめとする皆様どうもありがとうございました。そして4日間、選手と応援席のパイプ役としてアナウンサーの西田茂弘さんありがとうございました。そして、補助役員として参加した高校生諸君の頑張り、たいしたものでした。この経験を今後の高校生活に活かして頑張ってください。

さあ、いよいよ東京五輪に向かってのカウントダウンにはいりました。この若い力が開花することを祈念して感想とします。

「美しく咲け 君の笑顔と 努力の華」